

フードドライブ活動学習会 報告書

実施日時 令和4年7月16日(土) 13時30分~15時30分
会場 箕輪町地域交流センター
参加者 31名

内容 基調説明(15分)
講演(60分) ※休憩10分
講師 認定特定非営利活動法人フードバンク信州 美谷島越子 氏
テーマ “食”の循環と支え合いの地域づくり
質疑応答・意見交換(30分)

【質疑応答・意見交換】

- ・子ども応援プロジェクト9月10月で世帯数が減少しているが、何か要因などあるか。
→9月、10月は食品があまり集まりにくい時期等関係しているかも
- ・配送している世帯のリピート率は。
→約半分くらいの世帯がリピーター
- ・1か月に1回でフードバンク信州は実施しているが、箕輪町は2カ月の賞味期限として
いるが、変更できないか。
→2ヵ月くらいの期間がちょうど良いと考えている。いただいた食料が破棄されるのは避けたいと思っている。
→食料を動かすことが一番の目的。期限を決めてしまうことで本当は動かせるものが動かせなかったのはもったいない。手間暇は増えるがニーズとのバランスで提供する先を使い分けることが大切。2ヵ月は、長いかもしれない。
- ・食の循環は小さい単位であれば小さいほうが早く循環ができるのでは。
→まずは小さい地域で解決。解決することが難しいことは広域的な活動という意識が大切。反面、小さい地域だと顔を知られてしまうことを嫌と感じる方もいる。地域によって異なるし難しい。これからの課題。
- ・実家の茨城県つくば市では、公民館、学校にフードバンクのポストを設置し、定期的に誰かが回収している。仕組みが5年くらいになる。子どもたちにも意識づくりにもつながる。身近な活動にもあり得る。(鶴崎さん)
→箕輪町にはそういった仕組みはないが、コンビニなど相談を受けている。
→フードBOXは管理が難しい。定期的な確認。いただくときに顔を合わせて確認ができるがBOXはできない。郵便局で始まった市町村もいる。食なので安全の確保も大切。
- ・松島坂井常会で、常会の人、子どもも一緒にフードドライブ活動を行いたいと考えている。子どもの夏休みの活動の一つとして、集会場にもってきてと案内する。フードバンク事業の理解と社協の理解を普及したい。夏休みの活動として位置づけられたいと思っている。
→子供たちを巻き込むのは大切。今は子どもたちは支援の対象として考えられることが多いが、子どものころから理解を深めるのは大切。色んなプログラムが大切。

- フードバンクみのわ事業のチラシの変更を。お米が30キロでないと出せないように見える。(1合~2合なら持ってきやすい) 未開封、未使用と必ず記入する。
→日本語表記のものが良い。外国製は安全が保障できない。
- 年2回のリサイクル活動と一緒にフードドライブ活動を実施したらどうか。
→人件的でも必要である。いい機会なので要研究する。
- 7/30 箕輪まつりで、商工会を中心にフードドライブ、チャリティーバザーを実施する。皆さんぜひ協力を。去年はチャリティーコンサート(お金ではなく、フードドライブ)を実施した。フードバンク事業にはお金も必要。

【講師美谷島さんより】

- 地域等でフードドライブ活動をする場合に、ぜひ看板を社協で作成を。
- 農産物など生鮮品の循環を今後の活動課題として検討を。
- 地域の特性を活かした動きを検討してほしい。

【町社協としての今後について】

今回の学習会の狙いとして、小さい単位でのフードドライブ活動の普及を目的としているため、活動のサポートと広報を充実していく。

- ①寄付の賞味期限2ヵ月→1ヵ月について
→職員体制、寄付先を考慮して今後要検討。
- ②フードバンクのポスト(回収BOX)方式について
→まず9月以降実施予定のファミリーマート協働プロジェクトの動向を確認する。
- ③フードバンクみのわ事業のチラシ修正を
→修正してボランティアセンター運営委員会にて検討する。
- ④リサイクル収集とフードドライブの同時開催を。
→現状難しいと思われるが、今後要検討。
- ⑤地区のフードドライブ活動の掲示板作成を。
→簡単なものを作成する。上り旗なども検討する。

